

BBS、blogそしてSNS

近年、ブロードバンドや携帯電話によるインターネット接続などの普及によって、Webの利用者が急速に増加している。Webは、当初は単に情報収集の手段として利用されてきたが、最近では個人間のコミュニケーションの場として積極的に活用されるようになってきた。その利用形態は、BBS、BlogそしてSNSと多様化している。

コンピュータ・ネットワークを利用したコミュニケーション手段として最初に普及したシステムは、1990年代前半、インターネット普及前に全盛であったパソコン通信時代に利用されたBBS（電子掲示板、Bulletin Board System）である。BBSは複数の人間がネットワークを使って、あるテーマに対して記事を書き込み、お互いに閲覧しコメントがつけられるようにした仕組みであり、インターネット時代になってからも多くのBBSがインターネット上で開設されている。BBSは参加に対する敷居が低く投稿者の記名性が問題にされないことが多く、投稿者の存在が見えにくいと言われている。この特徴を積極的に活用した大規模コミュニティとして有名なのが匿名BBSの集合体ともいえる「2ちゃんねる」である。

インターネットの普及につれて、個人のホームページに日記をつける人が増えてきたが、90年代後半の米国でこうした日記を専門的な知識がなくても、容易に書くことができるWebサイトが登場した。新しい日記風サイトを指す言葉として「Web」と「Log（日記）」を1語にした「weblog」という言葉が生まれた。そ

の後これを略して「blog（ブログ）」と呼ばれるようになった。ブログには、ブログを見た人が誰でもそこに感想を書き込める「コメント」という機能や、他人のブログ記事に自分のブログ記事へのリンクを自由に張れる「トラックバック」という機能などがあり、単なる日記ではなく種々の情報が流通する新しいメディアとして注目されてきた。米国では同時テロを機に個人の情報の発信方法として注目され、急速に利用者が増加し、今やブログの登録数は2000万前後と見られている。わが国では、2003年末頃からプロバイダー、ポータルサイトがサービスを始め、ブログの登録者は、2006年3月末で868万に達している。

ブログに次いでWeb上のコミュニケーションの手段として登場したのがSNS（Social Networking Service）である。SNSは基本的に登録された会員同士で個人間の情報流通を実現するためのシステムで、当初はすでに参加している利用者からの招待を必要とする厳格な会員資格限定によるサービスから始まったが、最近は多くのサービスが登録制になっている。加入に際しては自分のプロフィールを登録する必要があることから、会員が限定されており、ネット内でのトラブルが起きにくいのが特徴である。

最初のSNSは、2003年に米国で開設された「Eriendster」である。このサイトは急速に利用者を獲得し、開設後3カ月で100万人に達したことから注目されるようになった。その後グーグルによる

「Orkut」が人気を集め、その後続々とSNSサイトが出現した。米コムスコア・ネットワークスの調査によると、米国での本年6月の主要SNSサイトの延べ利用者数は約1億4千万人で、前年同期に比べ倍増という伸びを示している。

わが国では、2004年2月に「ミクシィ」及び「グリー」が開設されたのが始まりである。「ミクシィ」の登録会員数は開設後2年半で570万人にのぼり、本年9月には東証マザーズに上場したが、買い注文が殺到して初値がつかなかったということで話題となった。2006年3月末のSNS登録者数は716万となっており、総務省では2007年3月にはブログを抜き1042万人になると予測している。最近では個人間のコミュニティの場だけでなく、企業がコミュニティを開設して、広告・宣伝の場として活用するなど、ビジネス活動にも用いられつつある。

ブログやSNSは、個人がWeb上で情報の発信者となり、コラボレーションによって、より有益な情報が生みだされるようなシステムであり、従来の壁新聞的なホームページとは違って、Webの使い方を大幅に変革した。このようにインターネット上のサービスの大きな変化を総称して、Web2.0と言う。Web2.0の特徴は個人参加型が多いという点であるが、この種のシステムでは、悪意ある情報操作に対する脆弱性も指摘されている。今後Web2.0がますます変革し、健全に発展することを期待したい。